

授業科目名 (副題)	保育実習Ⅲ		
担当者	畠山 由佳子		
実務経験のある教員による授業	○		
実務経験内容	児童福祉領域で実践経験のある教員が事例を挙げながら指導します。		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	○
その他			
[ICTの活用]			
manaba	○	Moodle	
その他			
[授業全体の内容の概要]			
1. 施設の保育を実際実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得します。			
2. 家族と施設の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要な能力を養います。			
[到達目標]			
①児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。			
②家族と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養うことができる。			
[準備学修(予習・復習)の内容・時間]			
自分の実習先について事前に調べておき知識を付けておいてください。			
将来、施設保育士として働くための知識・技術・価値を常に得ることを目的として学ぶ姿勢を持っておいてください。			
[成績評価方法]			
事前・事後指導を含む事前の準備(20%)、実習日誌・実習施設からの評価(80%)で評価します。			
[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]			
実習評価について個別にフィードバックを行います。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[メールアドレス]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[受講生への要望、その他]			
受講生は施設保育士を目指す人のみが対象となります。必ず事前に担当教員と面談をしたうえで履修して下さい。			

授業科目名 (副題)	保育実習Ⅲ
担当者	畠山 由佳子
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護全般への参加と養護技術を習得を行う。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 3. 援助計画を立案し、実際に実践する。 4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。 5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。 6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。 8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 <p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【 幼教3-1】保育者としての使命や社会的責任を自覚し、子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて行動することができる。</p> <p>成績評価方法: 事前・事後指導を含む事前の準備、実習日誌・実習施設からの評価</p> <p>[テキスト(ISBN)] なし</p> <p>[参考文献(ISBN)] なし</p>	